

第8回野鳥園臨港緑地干潟湿地環境保全事業委託アドバイザーボード 議事概要

1. 日 時

平成30年6月11日（月曜日）
午後1時30分～午後3時30分

2. 場 所

大阪市建設局 第10・11共通会議室
大阪市住之江区南港北2-1-10

3. 参加者

【委員】

鴻原委員、長瀬委員、山西委員、矢持委員

【協働事業者】

NPO法人南港ウェットランドグループ理事長 高田
大阪市建設局臨港方面管理事務所管理課長 鈴木
大阪市港湾局計画整備部施設管理課長 綱
住之江区役所協働まちづくり課長代理 浜上

【事務局】

大阪市建設局臨港方面管理事務所管理課
大阪市港湾局計画整備部施設管理課

4. 議事

- ・ 平成29年度事業報告
- ・ 平成29年度事業にかかる目標管理評価
- ・ 平成30年度事業計画
- ・ 平成30年度事業にかかる目標設定

5. 議事要旨

「4. 議事」について報告したのち委員から意見を受けた。

委員からの主な意見

【湿地の保全・再生に関して（平成29・30年度を通して）】

- ・ 野鳥園の緑地で収集した落葉を湿地部に投入する取り組みは、底生生物の生息など一定成果も出ており評価できる。大阪市立大学やNPOのこの間の調査結果では、腐食していない落葉を投入すると底生生物に悪影響があることが判明したとのものであり、十分に腐食・分解した落葉を使用し、継続して取り組みを進めていくとよい。また、現在は地産地消による落葉投入の取り組みでよいが、今後はフルボ酸の投入も検討してはどうか。
- ・ 塩分測定について、測定時期や測定方法などを工夫し進めてほしい。特に大雨の

後の濃度がどの程度まで低くなるのかを見ておく必要がある。

【魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成に関して（平成29・30年度を通して）】

- ・多様な環境学習会を実施しており評価できる。
- ・環境に配慮し生態系を守りながら人手もあまりかからない手法で、効果的なPRを行うのが望ましい。大変貴重な生物であるアカテガニが起爆剤になる。緑地部での観察でも効果的であり、アカテガニを利用して野鳥園を多くの人に知ってもらえるような仕掛けづくりを進めていくのが望ましい。
- ・一方、野鳥園は集客施設ではないことも踏まえ、大都市にある貴重な環境資源である南港野鳥園の湿地を保全し市民に環境学習の場の提供を継続して行っていくことと、市民の認知拡大をどうバランスさせるか検討し、方向性を導き出す必要がある。
- ・過日実施した干潟の生き物調査に参加した新たな府下の高校の先生が、府下の生物系教師のネットワーク事務局をされているとのことであるので、その先生を中核にして広く呼びかけていくことが望ましい。

【広報活動の充実に関して（平成29・30年度を通して）】

- ・新たに設置した人感式カウンタでは、同じ日に複数回出入りした人は重複してカウントされていることから、実際に近い数字（推計）を出したほうがよいのではないか。来園者数の計測は野鳥園の存在価値の評価にもつながる。
- ・港湾局・建設局・NPOの3者で次期の事業運営の方向性を定めていくにあたり、様々なユーザーや学校も交えたテーブルでヒアリングしつつ、事業の総括を行うのが望ましいのではないか。